

学校教育目標

- 健康で明るく 明るく健全な心と体をつくる
- だれとも仲良く 思いやりをもってすすんで協力する
- 自分から努力する 目標に向かって全力で実行する

小学校学習指導要領

【育成すべき資質・能力 三つの柱】

思考力・判断力・表現力

（知っていること・できることをどう使うか）

個別の知識・技能（何を知っているか、何ができるか）

学びに向かう力 人間性

（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

児童の実態

○授業に落ち着いて参加できる。

○基礎的基本的な学力の定着に個人差がある。

○自分の思いや考えを伝えたり、表現したりする力が弱い。

○根拠をもって、説明できる力や表現する力が弱い。

研究主題

自分の考えをすすんで表現しようとする児童の育成

目指す児童像（低学年）

自分の考えをもち、友達に伝えられる子

伝える：話して伝える
見せて伝える

目指す児童像（中学年）

・自分に合った方法を選んで表現しようとする子
～友達の考えを聞きながら～

目指す児童像（高学年）

- ・自分の考えと友達の考えを比較して、気付くことができる子
- ・相手の考えをより分かってもらう子
- ・分かったことを別の場面で確認できる子
- ・一つだけでなく、別の方法で考える子

「すすんで自分の考えをもつ」

ための手だて

・問題提示の工夫

「すすんで自分の考えをもつ」ためには、子どもたちが問題と出会った時に「もやもやするなあ」「どうしてだろう」「え！なんで？」「なんかできそう」と思えるような『子どもたちの問い』が生まれてくるような問題提示の工夫が必要だと考える。

そこで、各学年ブロックでは「疑問」「必要感」「既習事項との相違点」などのある問題になるように手だてを考えた授業を行う。

「表現できる児童の育成」

のための手だて

・ペア、グループでの話し合い活動を授業の中に取り入れる

ペア、グループを入れることで、表現できる場を確保する。ただやみくもに話し合いの場を設けるのではなく、「表現すると楽しい」「表現すると得するな」と児童が思えるようなタイミングを教師が意図をもって取り入れることが大切と考える。

ペア、グループの話し合い活動を、「授業のどのタイミングで」「どのような意図で」取り入れたのかを、各学年ブロックで考えた授業を行う。

「ふいかえりの視点」の掲示

※各学年の実態に応じて、教室に掲示し、ふいかえりのヒントにする。